

千年の草原の継承と創造的活用総合特区 [指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

正
準

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.3+3.4) \div 2=3.4$

3.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原面積、②野焼き再開牧野数	100%	5
2	①観光入り込み総数、②阿蘇地域の宿泊者数《定性的評価》	-	-
3	あか牛肉料理認定店数	97%	4
4	草原体験利用者数《定性的評価》	-	-
5	草原再生募金額	33%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) \div 5 = 3.3$

3.3

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.4

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3.0+4.0+3.3) \div 3=3.4$

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

■国との協議の結果、現時点で実施可能なことが明らかになった措置による事業

(事項)

・第三種旅行業者の企画旅行催行区域制限の緩和

(概要)

・旅行業法における催行区域の特例対象地域として、協議の結果、草原を活用した新たな旅行商品を第三種旅行業者が取り扱えるようになった。

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.3

正：平成27年3月末までに計画が認定された地区／準：平成27年3月末時点では計画が認定されていない地区

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.3

・阿蘇山の噴火レベル引き上げ後の風評被害等もあり、平成26年以降観光客入込・宿泊が落ち込んでいると推測される。地震及び豪雨災害もあり、畜産業や観光業の被害や売上減も考えられる。阿蘇の草原という世界農業遺産・ジオパークを復興のシンボルのひとつとして位置づけ、奮起されることを期待する。東北の経験に学ぶこと等も、方策としてはあるのではないか。

・評価指標(3)(あか牛肉料理認定店数)は全く増減がない。減っていないことの評価も可能であるが、増加の目標を立てているので、増加が期待されている。

・評価指標(5)(草原再生募金額)については、実績値が目標値の3分の1にとどまっている。加えて、分析内容は一般的にすぎず、もう少し深い分析が必要ではないか。ふるさと納税等と一体化した取組等、多くの国民にアピールし、工夫を凝らして募金を集めることが期待される。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.4 + 3.4 + 3.3 \times 2) / 4 = 3.4$

3.4

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。